

1 令和5年度事業報告

I 経営環境

令和5年度の長崎県の経済状況は、日銀長崎支店の「長崎県の金融経済概況」では、「一部に物価上昇の影響がみられるものの、緩やかに回復している」、「観光は回復が続いている」とされ、改善が穏やかに続く傾向にありました。

また、長崎県の観光動向調査によれば、令和5年の主要宿泊施設の延べ宿泊者数(5,455千人、前年比+17.3%)、主要観光施設入場者数(5,398千人、前年比+23.8%)となり、令和4年度に続き大きく改善しました。

今年3月の長崎県・金融短期経済観測調査では、全産業の業況判断D.I(景気が「良い」－「悪い」、%ポイント)は+17ポイントとなり、前回調査の先行き+10から大きく改善しており、年度後半に向け景気の回復度が増しております。

弊社の令和5年度の業績は、各事業で収益が伸びたものの、観光関係補助金や雇用調整助成金が減となったことから、税引前当期利益で1,569千円の黒字となったものの前年度に比べ大幅な減益となりました。また、繰延税金資産を本年度で解消したため、当期純損失が、11,166千円となりました。

このような状況の中、弊社においては、

○観光部門では、

- ・小学校の修学旅行等は、コロナ対策や旅行先等の企画内容の提案により教育現場からの

信頼確保に努めるとともに、県央地域での営業強化を図りました。

- ・山歩きツアーは、コンスタントにツアー実施を行いました。

- ・一般ツアー企画については、よか余暇ツアー企画などを行いました。個人旅行については、JTB旅行パック商品や航空券等の取り扱いが増加しました。

○広告部門では、県営バス車体への広告掲出などで堅調に推移しました。

○売店事業では、ターミナル利用者の回復に伴いYショップ店への転換拡大を2月中旬に行いました。

○ターミナル事業では、県交通局からの受託事業として運営を行いました。

Ⅱ．経営実績

（１）全体収支実績

令和５年度の営業収益は１８１，８０３千円（対前年比１０，２０８千円の増加、105.9％）営業費用は１８１，７１９千円、（対前年比４，３６０千円の増加、102.5％）となり、この結果、８４千円の営業利益が生じました。

さらに、営業外収益２９３千円、営業外費用９千円が生じ、特別利益１，２０２千円を加算した結果、税引前当期純利益１，５６９千円、当期純損失１１，１６６千円となりました。

営業収益、営業費用、営業利益の実績

<u>営業収益</u>	１８１，８０３，１６１円
<u>営業費用</u>	１８１，７１９，３５１円
<u>営業利益</u>	８３，８１０円

各事業の収入実績

（単位：千円）

事業別	旅行事業	広告事業	売店事業	手荷物	軽食	駐車場
R．３実績	41,017	34,294	24,903	3,464	2,400	6,121
R．４実績	48,530	34,494	20,193	5,943	1,200	6,374
R．５実績	50,061	34,099	24,055	6,744	0	14,198
対前年比	103.2％	98.9％	119.1％	113.5％	－	222.8％

（ターミナル業務受託事業を除く）

（２）事業別実績

（イ）営業部観光課

令和５年度は、全国旅行支援も７月には終了し、長崎県、熊本県などの教育旅行の補助金がなくなったものの、事業の柱である、修学旅行や、山歩きツアーに加えて、一般団体も回復傾向となり、また、カウンターにおける出張手配についても堅調であったことから、旅行事業にかかる斡旋手数料収入は、５０，０６１千円と、前年比１０３．２％（＋１，５３１千円）の結果となっております。

教育旅行については、県外へコースを戻す学校が増え、コロナ前どおりの動きとなり収益の確保へ繋がり、山歩きツアーについても九州外など遠方のツアーが滞りなく実施でき、コロナ前の動きに完全に戻ったこと、一般団体についても、企業、地域の自治会、宗教団体、消防団などがそれぞれ回復してきたこと、そして、カウンターについても出張需要が引き続き堅調に推移したことで、年間を通して順調に収益を確保することができました。

(ロ) 総務部広告課

広告事業の総売り上げは、34,099千円で、前年と比較して395千円の減額（対前年比98.9%）となりました。

年度前半は、コロナ禍からの回復基調もあり、積極的な交通広告の復活機運が見られました。しかしながら、年度後半からは一転して自治体関係及びクライアントから「費用削減」の声が挙がり、掲出車両台数の減や長年掲出を継続していたクライアントが解約することとなりました。

更には、令和4年度に補助事業を活用したORCのリムジンバス3面ラッピングや長崎市観光コンベンション協会のリムジンバス後面ラッピング等高額受注が減少したこともあり車外広告は厳しい状況となりました。

ただ一方では、既存車両の媒体を全車チェックすることにより、空き媒体を見出し大型外側板や後部ウィンドステッカーの積極的な販売や八千代町壁面フェンス広告の受注等施設広告の売上増を図ることにより、何とか前年度並みの売上額を確保することができました。

(ハ) 総務部総務課

売店事業の売上は24,055千円で、前年と比較して、3,862千円の増加（対前年比119.1%）となりました。

これは、長崎ターミナルの利用者の増や、令和6年2月にYショップ店を開店した効果です。

主な売上内訳は、

「切手、はがき等」	7,538千円
「土産」	6,223千円
「たばこ」	2,070千円
「ジュース類」	2,696千円
「弁当、パン」	2,068千円
「菓子」	1,519千円
「酒、ビール」	502千円などです

手荷物事業の売上は、6,744千円（同比801千円の増加）（同比113.5%）となりました。

駐車場の売上は、14,198千円（同比7,825円の増加）（同比222.8%）となりました。